

第56回日本PTA東北ブロック研究大会 東青大会

期日：令和6年9月7日(土)・8日(日)

場所：青森県青森市・平内町 6会場

「子どもを感動させろ、子どもを感動させるにはおまえ自身が感動しなきゃいかん。そのためには学びを止めるな。」すべては子どもたちの笑顔のためにを大会テーマに、青森県青森市、平内町の6会場で開催された東北ブロック研究大会の様子を前号に続いて報告します。

第4分科会では、岩手県でも取組みが進められている『運動部活地域移行』をテーマに、元青森山田高等学校新体操部監督である荒川栄さんから『マルチスポーツの可能性と運動部活動の地域移行』についてのご講演をいただきました。近年、国内や海外で活躍をされている日本人アスリートが多くが幼少期に複数のスポーツを同時期に行うマルチスポーツに取り組んでいるとのことでした。これは、一つのスポーツに偏らないことで、バランスの良い筋肉をつくり怪我を少なくすることや、競技への情熱を失ってしまいう『燃え尽き』を少なくする効果があるとのことでした。

また、マルチスポーツにより7つの神経系能力(空間認知能力、リズム能力、操作能力、調節能力、応用能力、バ

ランス能力、動作変換能力)が鍛えられ、非認知能力(諦めない力、自己肯定感、コミュニケーション能力、協調性)を高める側面も期待されることでした。マルチスポーツの効率的な取り組み時期としては、人間が様々な運動パターンを習得する3歳から7歳が良いとのことでした。

部活動の地域移行については、『地域移行』ではなく『地域連携』と考えるべきで、具体的な事例として『青森山田スポーツアカデミー』の活動を紹介していただきました。これは、スポーツ強豪校である青森山田中学校・高等学校のスポーツ力を活用し、地域の子ども達へのスポーツ指導、様々な体験、出張アカデミーを行うという内容でした。それ以外にキッズからプロまで一貫した指導体制が構

築された『BLUEアスリート』という事例も紹介をしていただきました。

今回の講演で、身近にある環境を活用し、子ども達にとつて最適なスポーツ環境や体制を構築することが重要であると感じました。

(副会長 福田 育英)

*

第1分科会(健全育成・家庭教育)に参加しました。テーマは「家庭や学校が抱える様々な課題へフオーアアップ」と題して、いじめや不登校、学校と保護者と地域の関わり方等パネルディスカッション形式で行われました。

学校生活に不安や悩みを抱える子どもへの声のかけ方や接し方と居場所作り、学校行事だけではなく地域の祭りや伝統芸能を通じて子どもと保護者と地域の人達が交流する

ことで郷土愛や人との繋がりが感じることができると等実例発表を聞き、合間に近くにいる人と話し合う時間やスマホでリアルタイムの意見をコーディネートターがピックアップし更に深めていく会場の一体感があるセミナーでした。

保護者としての役割、地域の人としての役割、PTA役員としての役割をしっかりと考え、改めて子どもの健全育成には多くの大人の「目」と「手」が必要なのだと再認識しました。

(副会長 山口 真樹)

